

(7-1) 第1回気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和3年5月27日(木) 13時30分から15時30分まで

【場所】気仙沼合同庁舎1階大会議室

【委員からの主な意見】

(1) 次期プランの論点・方向性

- ① 地域経済にとってプラスになる観光政策とするためには、内容をもっと具体化し、重点ポイントを絞る必要がある。
- ② 観光消費額の増加だけでなく、観光振興に携わった人たちの満足度を上げることによる観光の好循環を目指す視点が必要

(2) 計画期間

- ① 計画期間は3年が妥当と考えるが、コロナ禍で来週のことさえ予想がつかない状況なので、回復フェーズに応じた見直しを随時行う必要がある。
- ② インバウンドの回復時期の想定によって取組の方向性が変わってくるので、推計する際は、的確な現状把握と具体的な根拠が必要

(3) 次期プラン戦略の柱等

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大により観光事業者はかなり深刻な状況に陥っており、将来への見通しが立たない状況なので「戦略5：ポストコロナ時代への対応」に重点的に取り組む必要がある。まずは、経済的にダメージを受けた事業者に対する即効性のある施策等で体制を整えてからでないと進められない。
- ② 現在コロナ禍の中で窮屈な思いをしている現状が打開されたアフターコロナやポストコロナを見据えた前向きな視点も必要
- ③ 「観光資源の磨き上げ」「デジタルマーケティング」などの言葉が具体的に何を指すのか分かりづらい。
- ④ 「観光ニーズ」の変化をしっかりと捉え、その変化に即応できるような体制づくりが必要
- ⑤ 「マイクロツーリズム」の想定している範囲や経済的規模、あるいは「観光人材の育成」が示す意味などを具体化した方が良い。
- ⑥ 仙台一極集中の宮城県においては、仙台とそれ以外の地域の連携の方法について考える必要がある。

(4) 圏域ごとの施策の方向性

- ① NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」効果を逃さず活かしたプロモーションと放送を契機とした登米市との連携
- ② 三陸沿岸道路の県内全線開通により仙台・仙南圏域からの日帰りが可能となったことから、圏域内の市町が連携して宿泊につながるような滞在を誘引する必要がある。
- ③ マイクロツーリズムに適した観光コンテンツがその需要をしっかりと取り込み、リピーターになってもらえるような仕掛けが必要
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により変化した観光ニーズに対応する地域の受け皿を充実させる必要がある。
- ⑤ 地域の観光産業と基幹産業の相互理解を深め、連携する必要がある。
- ⑥ インバウンドの回復を見込み、県全体若しくは広域連携による観光ルートの整備が必要

- ⑦ 当圏域の豊かな自然を活かしたSDGsに特化した取組が必要
- ⑧ 高校生など若い世代が観光振興に取り組むことによるシビックプライドの醸成及び地域の活性化
- ⑨ 季節や年齢を問わない体験プログラムの充実などによる社会情勢の変化や多様化に対応可能な観光振興の取組が必要